

「地域型バイオマスフォーラム 第2回」に向けたメッセージ

はじめに

2019年7月に私たちは1回目のフォーラムを開き、「地域型バイオマス推進に向けた基本的考え方」を発表しました。今回、2回目のフォーラム開催に際し、熱利用拡大へのメッセージとして、下記の具体的提案を発表いたします。

日本の最終エネルギー消費の半分は熱です。2050年温室効果ガス排出実質ゼロに向けて、地域のバイオマスエネルギー活用・熱利用の意義を人々の共通認識として広げていくことがますます重要になっています。熱を有効活用することにより、電気利用だけの場合に比べてCO2削減効果は飛躍的に向上します。

1 バイオマス熱利用推進の必要性

地域資源であるバイオマスの熱利用は、次のような特質を有しており、持続可能な社会づくりのために、飛躍的に拡大していくことが望まれます。

- ・ 燃焼で排出される二酸化炭素は、光合成により吸収されたものであること
- ・ 持続可能な森林管理にもとづく地域の木質バイオマスの熱利用は、十分な温暖化対策効果が見込めること
- ・ 森林や農地の適切な利用・管理を通じて生態系保全や国土保全に貢献すること
- ・ 分散型で地産地消のエネルギーとして災害時のレジリエンスに資すること
- ・ 低温から高温まで広範囲の熱需要に対応できること
- ・ エネルギー利用に係る燃料購入費が地域に還元されること

しかしながら、バイオマス熱利用を拡大していくためには多くの課題があり、関係者が連携して取り組んでいくことが必要です。

2 バイオマス熱利用の推進に向けて

製造業、サービス業、公的施設、住居など幅広い分野における熱需要（蒸気、温水、冷暖房等）のための燃料として、地域資源であるバイオマスの活用を図るため、関係者が連携して課題解決に当たりながら、次のような取組みを進めていくことが必要と考えます。

- ・ ボイラーを設置する者において、ニーズに応じたバイオマスボイラーを採用すること（化石ボイラーからの置き換えを含む。）
- ・ バイオマスボイラーのメーカーや設置の計画を作成する者において、効率的な熱供給システムと、適切なプロジェクトマネジメントを提案すること
- ・ 燃料を供給する者において、求められる品質の燃料を安定的に供給すること

- ・熱を利用した商品・サービスの消費者において、商品・サービスの供給者に対し、バイオマス熱利用の推進を求めること
- ・地域の金融機関において、バイオマス熱利用の環境価値を含めて事業性を評価した融資・助言を行うこと
- ・行政において、再生可能エネルギー熱利用ロードマップを作成し、バイオマス熱利用の目標を設定し、効果的な支援（補助・税制・金融・規制改革等）を総合的に講じること
- ・バイオマス熱供給（熱売りを含む）サービスを行う事業体育成に向け、関連事業者への働きかけ、支援策の構築などを行うこと

提案団体（順不同、カッコ内は略称）

NPO 法人農都会議

NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク（BIN）

一般社団法人日本有機資源協会（JORA）

一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会（JWBA）

一般社団法人日本サステイナブルコミュニティ協会（JSC-A）

一般社団法人日本シュタットベルケネットワーク（JSWNW）

以 上